

授業内容や進め方の変化

1. 数年前からの授業内容や進め方の変化の様子

【ここ数年で、自作プリントを使った授業や、調べ学習や表現を重視した授業、生徒の発言や発表の時間、机間巡視や生徒に個別に対応する時間が増加。一方で、余談をする時間や、

教科書の内容をふくらませた説明、問題集や副教材の使用、練習や演習の時間が減少している。】

Q4. ここ数年間の、あなたの授業の進め方や授業の内容についてうかがいます。

A. 数年前と比べて、あなたが担当している授業の進め方はどう変わってきていますか。

1) ~ 17) のそれぞれについて当てはまる番号に○をつけてください。

数年前と比べて授業内容や授業の進め方がどのように変わったかを、授業時間の構成、授業の内容、授業のしかたの3つについていくつかの項目をたててたずねてみた。

最初に全体からみてみよう。すべての項目の単純平均を出してみると、「多くなっている」が14.4%、「変わらない」が49.3%、「減っている」が34.1%である。授業の進め方に関わる各項目について、約半数が変化していないと答えているものの、3人に1人が減っていると答えていることは注目に値する。中学校における学習指導は、総体としてはやや縮小しているということを念頭においたうえで、個々の結果をみていくことにしよう。

図1-13は、数年前と比べて「多くなっている」という回答の割合の高かった順に、図1-14は、「減っている」という回答の割合の高かった順に項目を並べたものである。

「多くなっている」という回答の割合が高く、また「減っている」という回答の割合が低かったものとしては、「自作プリントを使った授業」(36.8%)、「調べ学習や表現を重視した授業」(34.4%)、「生徒の発言や発表の時間」(23.5%)、「机間巡視や生徒に個別に対応する時間」(21.7%)が挙げられている。新学力観に関わる学習に割く時間が増加

しているとみることができよう。

「減っている」という回答の割合が高く、「多くなっている」という回答の割合が低かったものとしては、「余談をする時間」(58.6%)、「教科書の内容をふくらませた説明」(45.6%)、「問題集や副教材の使用」(44.4%)、「練習や演習の時間」(40.4%)が挙げられている。週5日制の導入によって各教科とも若干とはいえ授業時数が減っていることや、新学力観に関わる学習の導入などによって、従来からの授業スタイルや、教科内容を十分に説明したり、定着させたり、個々の授業のなかでゆとりをもたせたりする時間がなくなってきている様子がうかがえる。

「多くなっている」という回答と「減っている」という回答のどちらも多かったものとしては、「教師主導の講義形式の授業」「生徒が自由に議論する授業」が挙げられていた。次にみるように、教科によってばらつきがみられるのだが、新学力観に関わる学習の導入と、一方で週5日制の導入という状況が強く反映された結果とみることができる。

「多くなっている」という回答と「減っている」という回答のどちらも少なかったものとしては、「板書の量」と「教科書にそった授業」が挙げられていた。教科書をもとに授

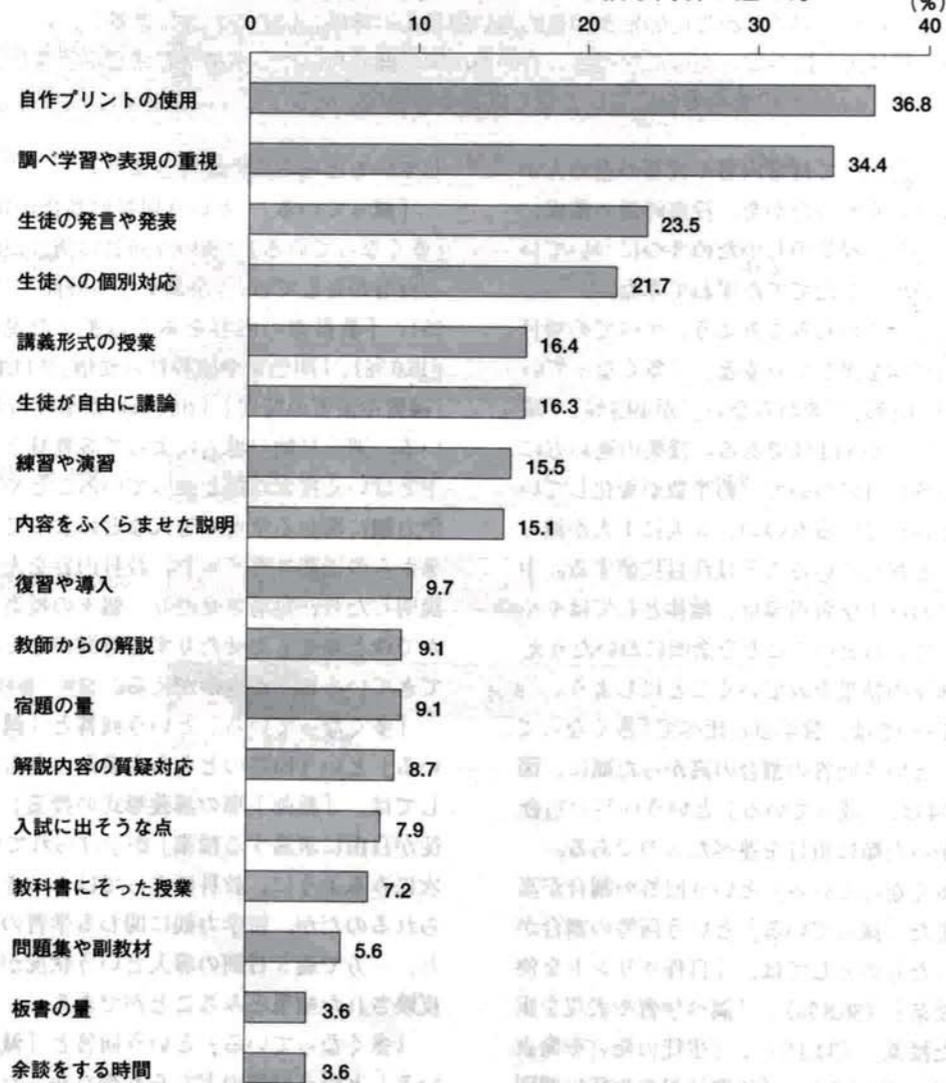
業が組み立てられ、また身につけるべき必要なことは板書するという基本的なスタイルには大きな変化がみられない。

次に表1-7から担当教科別にみてみよう。ここでは、5教科について「多くなっている」と「減っている」という回答が、全教科の平均と比べて、また5教科のなかでみたときに割合が高かったものをまとめる。

国語は、「多くなっている」という回答の

割合が高かったものが、「机間巡視や生徒に個別に対応する時間」「生徒の発言や発表の時間」「調べ学習や表現を重視した授業」「宿題の量」で、「減っている」という回答の割合が高かったものが、「復習や導入の時間」「練習や演習の時間」「余談をする時間」である。新学力観に関わる学習が取り入れられている一方で、定着のための時間が削減され、宿題にまわされていることが読みとれ

図1-13 数年前より多くなっている授業内容や進め方 (%)



注) サンプル数は1368人。

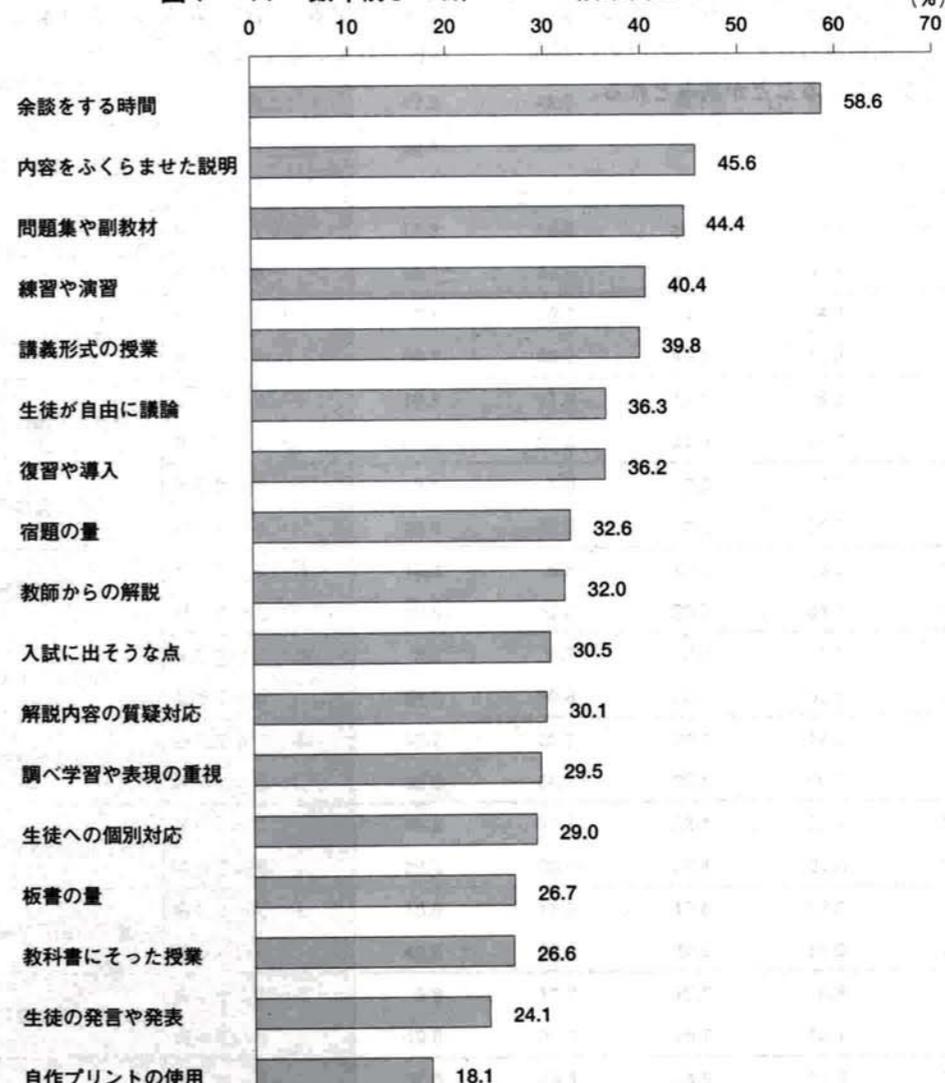
る。

社会は、もっとも変化の大きかった教科である。「多くなっている」割合が高いものが、「教師からの解説の時間」「生徒の発言や発表の時間」「調べ学習や表現を重視した授業」「自作プリントを使った授業」で、「減っている」割合が高いものが、「机間巡視や生徒に個別に対応する時間」「板書の量」「宿題の量」「教科書にそった授業」である。新学力観に

関わる学習が多く取り入れられているが、そのために、従来からの授業でも行ってきた必要な事項を説明するための授業時間の効率化が、教科書の内容の精選や自作プリントの使用などではかられていることが読みとれる。

数学で「多くなっている」割合が高いものは、「入試によく出そうな点の解説や演習」「教師主導の講義形式の授業」で、「減ってい

図1-14 数年前より減っている授業内容や進め方 (%)



注) サンプル数は1368人。

る」割合が高いものが、「練習や演習の時間」「問題集や副教材の使用」「調べ学習や表現を重視した授業」である。数学の授業時数の削減率は一番低かったのだが、それでも従来に比べて問題演習などの定着のための時間が削減されて、効率的に授業を進めるようになっていくことが読みとれる。

理科はもっとも変化の少なかった教科である。「多くなっている」という回答で平均や5教科のなかでも飛び抜けて高い割合の項目はなく、「減っている」という回答で「練習や演習の時間」「入試によく出そうな点の解説や演習」が高い割合を示した程度である。数学と同様に、問題演習などの定着のための時間が少なくなっていることが読みとれる。

外国語では、「多くなっている」割合が高いものが、「復習や導入の時間」「練習や演習の時間」「生徒の発言や発表の時間」「教科書の内容をふくらませた説明」「宿題の量」で、「減っている」割合が高いものが、「問題集や副教材の使用」「教師主導の講義形式の授業」「自作プリントを使った授業」である。説明の時間もあり、また生徒の主体的な学習に割く時間もとれているなど、他教科に比べて時間的にゆとりがある授業が行われていることが読みとれる。ただ問題集や副教材の使用が減って、一方で宿題が増えているように、応用的な内容の定着のための時間の一部は家庭学習に任されているようだ。

表1-7 数年前からの授業内容や進め方の変化(教科別)

		(%)				
		国語 (197)	社会 (169)	数学 (187)	理科 (192)	外国語 (193)
復習や導入	多くなっている	11.7	11.8	13.9	6.3	13.0
	減っている	45.7	34.3	39.0	41.7	29.5
教師からの解説	多くなっている	9.1	15.4	10.7	9.4	5.7
	減っている	28.4	33.7	29.4	26.0	29.0
解説内容の質疑応答	多くなっている	9.1	11.8	13.4	7.8	5.2
	減っている	27.9	32.0	25.7	31.3	28.5
生徒への個別対応	多くなっている	28.4	19.5	25.7	17.2	18.1
	減っている	29.4	34.9	26.7	31.3	31.6
練習や演習	多くなっている	18.8	7.7	13.9	6.8	22.3
	減っている	47.2	42.6	48.7	51.0	33.2
生徒の発言や発表	多くなっている	29.4	29.6	23.0	15.1	29.0
	減っている	21.3	27.8	20.9	26.0	22.3
内容をふくらませた説明	多くなっている	11.2	19.5	15.5	12.0	20.2
	減っている	48.7	43.2	48.1	48.4	42.0
問題集や副教材	多くなっている	6.1	8.3	4.8	4.7	6.2
	減っている	48.7	43.2	49.2	43.8	49.2
入試に出そうな点	多くなっている	10.7	11.8	12.3	6.3	8.3
	減っている	31.5	35.5	31.0	41.7	35.8
板書の量	多くなっている	3.6	3.0	3.2	3.6	3.1
	減っている	28.4	45.0	12.8	24.0	26.9
宿題の量	多くなっている	12.2	6.5	10.2	6.8	13.5
	減っている	38.6	42.0	28.3	34.9	30.1
余談をする時間	多くなっている	3.6	4.7	3.7	1.0	2.6
	減っている	64.5	59.8	60.4	59.4	58.0
講義形式の授業	多くなっている	16.2	22.5	24.1	17.2	9.8
	減っている	42.6	36.7	32.1	30.7	47.2
調べ学習や表現の重視	多くなっている	45.2	45.0	23.5	28.1	35.8
	減っている	29.9	29.0	36.4	31.3	24.4
生徒が自由に議論	多くなっている	18.8	17.2	17.6	12.0	11.9
	減っている	42.6	36.1	34.2	38.0	33.7
教科書にそった授業	多くなっている	5.6	11.2	10.2	6.8	6.2
	減っている	19.8	32.0	25.7	15.1	17.6
自作プリントの使用	多くなっている	37.6	43.2	34.8	31.3	37.3
	減っている	21.3	15.4	18.2	18.2	24.9

注) ()内はサンプル数。

2. 数年前からの授業内容や進め方の変化の感じ方

【授業内容の定着度の低下を教師の3人に2人が実感。数学、理科、外国語でその傾向がやや強い。授業内容の密度が薄れているのは

社会と理科。教科書が終わらないのは国語と社会。】

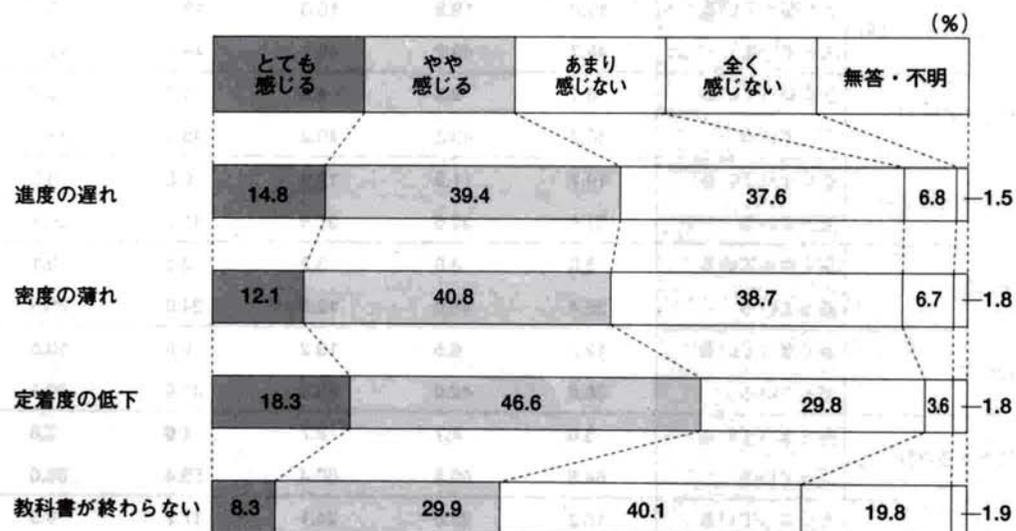
Q4. ここ数年間の、あなたの授業の進め方や授業の内容についていかがですか。
B. 数年前と比べて、次のように感じることはありますか。

前項でみたような、数年前からの授業内容や進め方の変化について、どのように感じているのだろうか。

最初に全体からみてみると、図1-15のよ

うに、「授業の進度が遅れるようになった」「授業内容の密度が薄くなった」「授業内容の定着度が低くなった」のいずれの項目とも、半数強が「とても感じる+やや感じる」と回答し

図1-15 授業内容や進め方の変化の感じ方



注) サンプル数は1368人。

している。しかしながら、教科書がすべて終わらないことが多くなったかという点、59.9%が否定的な回答をしており、次項で検討するように、6割の教師はなんらかの方法で年度内に指導すべきことを終えているようである。

次に担当教科別、教職経験年数別にみてみよう。表1-8に、各項目について「とても感じる+やや感じる」の割合をまとめた。

進度の遅れについては、やや社会が低いものの、どの教科担当の教師も同程度に感じている。経験年数別にみると、21年以上の経験年数の長い教師ほど進度の遅れを感じている。

密度の薄れについては、理科と社会の担当教師が他教科よりも多く感じており、国語と

外国語の担当教師で感じている割合がやや少ない。経験年数別には、21年目から30年目までの教師で感じている割合が高い。

定着度の低下については、数学と理科と外国語の担当教師が感じている割合が若干ながら高い。経験年数別には、10年目までとそれ以上とで分かれており、経験年数の長いほど感じている割合が高い。

教科書が終わらないことについては、国語と社会の担当教師が強く感じており、定着度の低下を危惧していた割合の高かった数学と外国語では、教科書を終わらせていると感じている割合は高くなっている。

表1-8 授業内容や進め方の変化の感じ方(教科別・教職経験年数別)

	国語 (197)	社会 (169)	数学 (187)	理科 (192)	外国語 (193)	~5年目 (132)	6~10年目 (199)	11~20年目 (642)	21~30年目 (262)	31年目以上 (131)
進度の遅れ	54.9	49.7	54.0	55.7	52.8	43.2	50.3	52.6	63.0	61.1
密度の薄れ	45.7	62.8	55.1	65.7	46.1	45.4	47.3	52.7	60.7	54.2
定着度の低下	65.0	66.8	70.1	69.3	71.0	52.3	57.3	67.3	69.1	67.9
教科書が終わらない	54.3	42.0	27.2	37.0	27.4	40.1	36.2	36.1	40.5	44.3

注1) ()内はサンプル数。

注2) 数値は「とても感じる」と「やや感じる」の合計。

3. 進度が遅れたときの対応

【進度の遅れには、授業内容の精選（国語、社会）、練習問題を宿題にまわす（国語、数学、理科、外国語）、他教科の授業時間をも

らう（数学）などで対応。社会と理科は次年度にまわすことも。】

Q4. ここ数年間の、あなたの授業の進め方や授業の内容についてうかがいます。
 C. あなたは、授業が予定通り進まず、進度が遅れが出たとき、どのように対応していますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。
 SQ. Cで、1に○をつけた方のみについてうかがいます。どのように授業内容を精選していますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

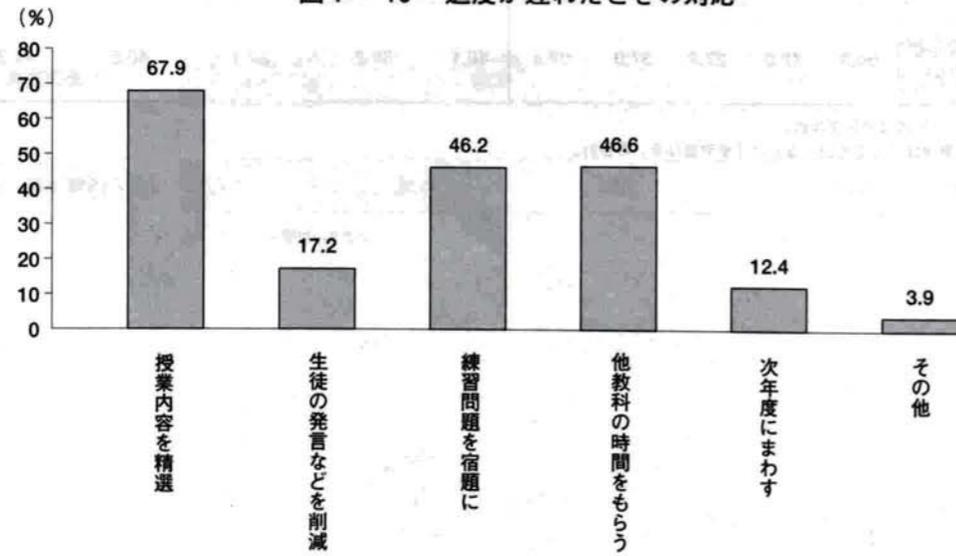
前項でみたように、半数以上の教師が授業の進度の遅れを実感している。では、実際に授業が遅れたとき、どのように対応してその遅れを取り戻しているのだろうか。

最初に全体からみると、図1-16のように、「授業内容を精選」して対応する割合がもっとも高く、67.9%にも上っている。また、「練習問題などを宿題にまわす」「他教科の授業時間をもろう」ことによって対応している教師も半数近くいる。「その他」として挙げられていたのは放課後や昼休みなど、「課外

授業をする」「自作プリントを作成」して効率化を図るなどである。

次に担当教科別にみてみよう。表1-9のように、教科によって対応策にはばらつきがある。「授業内容を精選」は、国語と社会では80%以上の教師が採っているのに対して、数学、理科、外国語では60%前後の教師が採っているにとどまっている。「練習問題などを宿題にまわす」は、社会で割合が少ないが、これはもともと練習問題というものが少ないからだろう。「他教科の授業時間をもろう」は、

図1-16 進度が遅れたときの対応



注) サンプル数は1368人。

数学でこの方法を採用している割合が61.5%と高くなっているが、その他の教科では40%台である。「次年度にまわす」は、社会の20.1%と理科の33.9%が目立っている。この2教科は分野ごとの区分のほうが強く、年度ごとに一定のまとまりをつける必要が他教科より強くないためと思われる。

最後に、授業内容の精選方法について表1-10にまとめた。全体からみると、「高校入試の特徴とその内容をふまえてポイントを絞る」「応用問題などを削減する」が3人に1人、「他の単元でカバーできるところを削減する」が3人に2人だが、担当教科別に方法がちが

っている。「高校入試の特徴とその内容をふまえてポイントを絞る」方法は社会と理科でやや多く採られている一方、国語ではあまり採られていない。「応用問題などを削減する」方法は数学、理科、外国語で半数以上の教師によって採られている一方、国語と社会ではあまり採られていない。反対に「他の単元でカバーできるところを削減する」方法では、国語と社会で80%以上の教師がこの方法を採用しているのに対して、数学、理科、外国語では、その半数程度にとどまっている。これらはいずれも各教科の内容や指導方法の特性に応じた精選方法といえよう。

表1-9 進度が遅れたときの対応 (教科別)

	国語 (197)	社会 (169)	数学 (187)	理科 (192)	外国語 (193)
授業内容を精選	83.2	80.5	63.6	58.9	60.1
生徒の発言などを削減	12.2	27.2	20.9	17.2	17.6
練習問題を宿題に	57.9	36.1	56.7	54.7	60.6
他教科の時間をもろう	40.6	45.6	61.5	45.8	49.7
次年度にまわす	3.6	20.1	4.3	33.9	4.1
その他	1.5	5.3	5.3	3.1	0.1

注) () 内はサンプル数。

表1-10 授業内容の精選方法 (教科別)

	国語 (197)	社会 (169)	数学 (187)	理科 (192)	外国語 (193)	全体 (1368)
入試のポイント	23.8	43.4	39.5	46.9	37.1	30.0
応用問題を削減	20.7	14.7	63.0	54.9	54.3	32.6
他の単元でできるところを削減	88.4	81.6	40.3	37.2	44.8	63.0
その他	9.1	9.6	16.8	16.8	13.8	15.0

注) () 内はサンプル数。